

# 活動報告書

報告者氏名：大本美智子 所属：広島県立呉特別支援学校 小学部

記録日：平成 25 年 2 月 25 日

## 【対象児（群）の情報】

### ・ 学年

小学部 第 4 学年 10 歳

### ・ 障害名

アンジェルマン症候群（重度知的障害）

### ・ 障害と困難の内容

①障害の特性として、スムーズな動きができない。運動全般でぎこちなさがあるため、特に指先を使う活動が苦手である。

②集中力も散漫で、視覚・聴覚刺激にそらされて活動を中断し、別の活動を始めるということが次々に起こることが多くあった。

③言語理解より言語表出の方に課題があるという障害特性から、生活場面で自分の思いをうまく伝えることができず、つい力が入りすぎて結果として他害行為となってしまうことがあった。

## 【活動目的】

### ・ 当初のねらい

スムーズな運動ができないことや、集中力が散漫であることから、日常行う活動の定着が難しかった。そのことから、日常生活の一部分でも一人で最後までできる活動を作ることをねらいとした。

### ・ 実施期間

第 1 期 6 月 19 日から 7 月 1 9 日の毎日

第 2 期 夏休み中（家庭）

第 3 期 2 学期（毎週金曜日）

### ・ 実施者

大本美智子

第 2 期は保護者

### ・ 実施者と対象児の関係

クラスの担任

## 【活動内容と対象児（群）の変化】

### ・ 対象児（群）の事前の状況

対象児は、何か活動をしている時も常に様々な刺激に敏感に反応していた。着替え中でも音がした方に着替えを忘れて行ったり、歯磨きの途中でも友達が教室の前を通ると、歯ブラシを手放して床に落とし友達の方に駆け寄っていくという状況だった。

### ・ 活動の具体的内容

第1期と第2期では、給食後毎日「ぱんだ！と毎日キレイ歯みがき」のアプリを見せて歯磨きを行った。ユーチューブに歯磨きの動画などもあって試してみたが、対象児が一番興味を示したのがこのアプリだったので活用することとした。歯磨きに限定したのは、対象児はスムーズな動きを行うことが難しく、なるべくシンプルな活動で、1つの動き（歯ブラシを歯に当てて動かす）だけで行うことができると考えて選んだ。

第3期では、日常生活の中で一つの動きだけで定期的に行なうものとしてシューズ洗いをを行った。シューズを洗う前に、ユーチューブの動画を1度見せて、その直後に動画を流しながらシューズ洗いをを行った。



### ・ 対象児（群）の事後の変化

第1期の終了後、児童は歯ブラシを途中で落として立ち歩くことはなく、歯ブラシを口に入れて横に動かすことができるようになった。第2期は夏休み中家庭でも同じように歯磨きができるようになった。

第3期では、シューズを左手で押さえて右手でブラシを上下に動かすことができるようになった。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・ 主観的気づき

i P a dを見せることで、何を見たらいいのかが分かり他へ集中がそれることが少なくなった。また、パンダの動きがギクシャクして対象児童には分かりやすかったようだ。単調なリズムの音楽も活動を遮ることなく、動きを促進していたように思う。

たった1つの活動ではあるが、「歯磨きは一人でできる」ということが対象児童の自信につながり、教室掃除やトイレ掃除など様々なことに挑戦するようになった。

集中の仕方も分かったようで、他の授業場面でも前で説明する教師をよく見て一人で活動する姿が出てきた。

### ・ エビデンス（具体的数値など）

評価項目：①「歯ブラシを口に入れることができる。」②「歯ブラシを自分で動かすことができる。」③「1分間自分で動かすことができる。」（④2分⑤3分⑥4分⑦5分）

<経過> はじめの1週間でi Padを見ながら評価項目①ができるようになった。2週間目には②へ移行し、7月20日には④までできるようになった。夏休みの間も家庭で実施してもらった。2学期に入るとi P a dを自らもって来て歯磨きの準備ができるようになった。

・その他エピソード（画像などを含めて）

言語理解より言語表出の方に課題があるという障害特性から、生活場面で自分の思いをうまく伝えることができず、つい力が入りすぎて結果として他害行為となってしまうことがあった。その解決法としてiPadをコミュニケーションツールとして活用できないかと考えたが、指先を使う活動が苦手で操作することが難しかった。しかし、写真カードを手渡すと好きなアプリを開いてもらえることがわかり、カードの活用はできるようになった。

